

令和元年度

北但行政事務組合決算審査意見書

一 般 会 計
基 金 運 用 状 況

北但行政事務組合監査委員

令和2年9月18日

北但行政事務組合

管理者 中 貝 宗 治 様

北但行政事務組合

監査委員 保 田 勇 一

監査委員 竹 中 理

令和元年度北但行政事務組合一般会計決算
及び基金運用状況の審査意見について

地方自治法第292条において準用する同法第233条第2項及び同法第241条第5項の規定により審査に付された、令和元年度北但行政事務組合一般会計歳入歳出決算及び決算附属書類並びに令和元年度基金運用状況について審査したので、次のとおりその意見を提出します。

目 次

第1	審査の対象	1
第2	審査の期間	1
第3	審査の方法	1
第4	審査の結果	1
1	総括	1
2	決算の概要	2
3	財政の状況	4
4	財産の状況	7
5	基金の運用状況	7
6	審査の所見	8
[参 考 資 料]		
	歳入歳出決算前年度比較表	9

※ 各表中、一部の表は資料の都合により千円単位で表示しており、合計と内訳の計、差引及び前年度比較が一致しない場合がある。

令和元年度北但行政事務組合一般会計歳入歳出決算 及び基金運用状況の審査意見書

第1 審査の対象

- | | | |
|---|-------|--------------------|
| 1 | 令和元年度 | 北但行政事務組合一般会計歳入歳出決算 |
| 2 | | 同 歳入歳出決算事項別明細書 |
| 3 | | 同 実質収支に関する調書 |
| 4 | | 同 財産に関する調書 |
| 5 | | 同 基金の運用状況に関する調書 |

第2 審査の期間

2020年6月17日から9月14日まで

第3 審査の方法

- 1 令和元年度の一般会計歳入歳出決算書及び決算附属書類について、会計管理者及び組合当局から必要な書類の提出を求め、事項別に説明を聴取するとともに、例月現金出納検査並びに定期監査及び行政監査の結果を参考にしつつ、審査の過程に応じ適宜関係諸帳簿と照合し、計数審査を行ったほか、予算執行状況等について審査した。
- 2 令和元年度の基金について、関係諸帳簿と照合し、計数及び運用状況について審査した。

第4 審査の結果

審査に付された一般会計歳入歳出決算及び決算附属書類は、いずれも関係法令及び議会の議決に則ったものであり、計数は関係諸帳簿と符合し正確であると認められた。また、予算の執行状況についても、おおむね適正であると認められた。

なお、要望事項等については「6 審査の所見」に述べているので、今後対応等を求める。また、軽易な注意事項等については、その都度口頭で改善指導したので記述を省略した。

以下、審査の結果は次のとおりである。

1 総括

北但ごみ処理施設の維持管理及び広域ごみ・汚泥の処理に関する事務を共同して行うことを主要な事業として取り組んでいる。

施設運営事業者としてタクマグループの設立したSPC（特別目的会社）「ほくたんハイトラスト株式会社」が管理業務を行っている。稼働から3年経過し、（一財）日本環境衛生センターによる第三者運営モニタリング（監視）が実施され、指摘事項もなく適正に運営できているという報告を受けている。

- (1) 市町別のごみの受入状況は、豊岡市29,194.34 t（一般廃棄物処理基本計画対比103.82%）、香美町6,000.84 t（一般廃棄物処理基本計画対比98.00%）、新温泉町4,872.39 t（一般廃棄物処理基本計画対比92.07%）、全体で40,067.57 t（一般廃棄物処理基本計画対比97.69%）となっている。

- (2) 令和元年度も、スムーズな受入体制をとることができ、排ガス自主保証値[※]を遵守しながら安全に施設稼働を行っている。計画外休止は、鉄板が混入したことにより1回行ったが、原因物を除去し速やかに通常運転に戻している。水銀については、自主保証値[※]を超える恐れがあったため、1回の炉停止を行ったが、安全のための一時的な停止であり、マニュアルに基づき適正に対応し関係者に報告も行っている。
- [[※]施設運営事業者が自主的に提案した法で定める環境基準よりはるかに厳しい値]
- (3) 施設には、資源循環と環境保全について考える体験の場を備えており、施設の見学者は、各種市民団体等で43団体、1,143人、一般見学者で31人となっている。
- 当年度は、自然環境との共存・共生を図るためのイベントを6回開催し、203人の参加者があった。また、里山保全のために鹿の侵入を防ぐ防護網の設置、苗木の移植、間伐などを行い、環境保全の先進地を目指している。
- (4) 地元住民にごみ処理の安全性を周知するため、周辺9地点の土砂と第1調整池浚渫土を採取し土壌調査を行った結果、土壌環境基準項目及びダイオキシン類は全地点の全項目で環境基準値を下回った。今回の調査と施設稼働前の調査の結果と比較しても大きな変化はなかった。
- (5) 事業推進に当たり地元等との協議及び報告を行っている。施設運営委員会を1回開催し、環境保全状況、管理施設における監視体制、地域振興事業の進捗状況などの報告を行っている。また、毎月月例報告として、ごみ受入状況、環境監視の状況などの報告を行っている。引き続き事業運営への理解を得るように努めている。
- (6) 北但ごみ処理施設建設に伴い策定された「広域ごみ・汚泥処理施設建設に伴う森本区・坊岡区地域振興計画」については、当年度は4事業（森本団地児童公園遊具安全点検、林道・作業道補修用資材対応、コミュニティ活動への支援等）を実施している。
- (7) 「施設長期停止時に係る廃棄物の運搬及び処分業務委託に関する基本協定」及び「災害廃棄物の運搬及び処分業務委託に関する基本協定」を締結し、緊急事態における事業継続のための体制を整えている。

2 決算の概要

(1) 決算規模

(単位：円)

区分	歳入総額	歳出総額	歳入歳出差引額	翌年度繰越財源	実質収支額
令和元年度	750,790,334	716,247,518	34,542,816	0	34,542,816
平成30年度	722,380,057	685,746,851	36,633,206	0	36,633,206
比較	28,410,277	30,500,667	△2,090,390	0	△2,090,390

歳入歳出決算額は、歳入総額750,790千円、歳出総額716,248千円で、前年度と比較すると歳入では28,410千円（3.9%）の増、歳出では30,501千円（4.4%）の増となっている。

(2) 決算収支

歳入歳出差引額である差引（形式）収支額は34,542千円（実質収支額も同額）の黒字となっている。前年度の実質収支額36,633千円を差し引いた単年度収支は2,091千円の赤字となっている。

なお、一般廃棄物処理施設基金へ19,004千円の積立てを行っており、実質単年度収支は16,913千円の黒字となっている。

(3) 決算額等の推移

直近5か年間の決算額等の推移は、次のとおりである。

（単位：千円、％）

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
歳入	決算額	4,702,188	2,973,569	702,792	722,380	750,790
	前年対比	120.4	63.2	23.6	102.8	103.9
歳出	決算額	4,696,564	2,908,973	676,502	685,747	716,248
	前年対比	120.4	61.9	23.3	101.4	104.4
差引収支額		5,624	64,596	26,290	36,633	34,542
（うち繰越明許費繰越額）		0	0	0	0	0
実質収支額		5,624	64,596	26,290	36,633	34,542
単年度収支額		1,786	58,972	△38,306	10,343	△2,091
一般廃棄物 処理施設基 金	積立額	0	10,000	14,001	17,502	19,004
	繰入額	0	0	0	0	0
繰上償還金		0	0	0	0	0
実質単年度収支額		1,786	68,972	△24,305	27,845	16,913

（注）一般廃棄物処理施設基金は、実質黒字要素として位置付けている。

(4) 令和元年度決算額の概要

令和元年度の決算の概要は、次のとおりである。

<歳入>

（単位：千円、％）

款別	年度	令和元年度			平成30年度 決算額	対前年比
		予算額	決算額	収入率		
分担金及び負担金		327,376	327,376	100.0	315,090	103.9
使用料及び手数料		154,102	152,960	99.3	149,063	102.6
財産収入		217,504	229,087	105.3	37,262	614.8
繰越金		36,633	36,633	100.0	26,290	139.3
諸収入		2,502	4,734	189.2	194,675	2.4
計		738,117	750,790	101.7	722,380	103.9

当年度の歳入は、予算現額738,117千円に対し、決算額は750,790千円であり、予算現額に対する収入率は101.7%である。決算額を前年度と比べると28,410千円(3.9%)の増となっている。前年度に比べて財産収入の決算額が増加したのは、(款)財産収入に(項)財産売払収入(目)生産物売払収入を新設し、前年度決算まで諸収入で収入していた電力売払収入を財産収入に200,405千円収入したためである。

<歳出>

(単位:千円、%)

目 別	年 度	令和元年度			平成30年度 決算額	対前年比
		予算額	決算額	執行率		
議 会 費		1,017	885	87.0	1,504	58.8
総 務 費		53,600	52,658	98.2	50,341	104.6
衛 生 費		683,200	662,705	97.0	633,902	104.5
予 備 費		300	0	0.0	0	—
計		738,117	716,248	97.0	685,747	104.4

当年度の歳出は、予算現額738,117千円に対し、決算額は716,248千円である。前年度と比べると30,501千円(4.4%)の増となっている。執行率は、97.0%であり、前年度を1.8ポイント下回っている。前年度に比べて議会費の決算額が減少したのは、議員視察研修の実施年度でないことなどのためである。不用額21,869千円は予算現額に対して3.0%である。

3 財政の状況

歳入総額750,790千円の内訳は、分担金及び負担金〔構成市町負担金〕327,376千円(構成比43.6%)、使用料及び手数料152,960千円(構成比20.4%)、財産収入229,087千円(構成比30.5%)、繰越金36,633千円(構成比4.9%)、諸収入4,734千円(構成比0.6%)である。

歳入では、直接搬入の増によりごみ処理手数料が、運転管理の適正化により電力売払収入が予算額より増収となっている。資源化物売払収入は、下半期分の単価が大きく下落したことにより減収となっている。

歳出総額716,248千円の内訳は、議会費885千円(構成比0.1%)、総務費52,658千円(構成比7.4%)、衛生費662,705千円(構成比92.5%)である。

衛生費〔(項)清掃費(目)施設運営管理費〕の主な支出は、施設運営委託業務478,579千円、ばいじん処理委託業務31,104千円、最終処分場負担金78,398千円である。

歳出における不用額21,869千円の内訳は、議会費132千円、総務費942千円、衛生費20,495千円、予備費300千円となっている。

歳出では、クリーンパーク北但山の恵みビオトープ外改修等工事を実施したことにより施設運営管理費で増となっているがおおむね見込みどおりの執行となっている。

なお、施設運営委託業務は、2014年度から2036年度の債務負担行為を設定し、ほくたんハイトラスト㈱に委託している。(管理運営業務の全体契約額8,842,050千円)

(1) 性質別歳出の状況

性質別歳出の状況は、次のとおりである。

(単位：千円、%)

区 分		令和元年度		平成30年度		対前年度 増 減
		決算額	構成比	決算額	構成比	
経常的 経 費	人 件 費	16,145	2.3	12,815	1.9	3,330
	物 件 費	540,033	75.4	526,789	76.8	13,244
	維持補修費	0	0.0	39	0.0	△39
	補助費等	128,247	17.9	128,602	18.7	△355
	小 計	684,425	95.6	668,245	97.4	16,180
臨時的 経 費	物 件 費	841	0.1	0	0.0	841
	普通建設事業費	11,978	1.7	0	0.0	11,978
	積 立 金	19,004	2.6	17,502	2.6	1,502
	小 計	31,823	4.4	17,502	2.6	14,321
合 計		716,248	100.0	685,747	100.0	30,501

※ 維持補修費は、施設修繕費、原材料費の皆減

※ 臨時的経費の物件費は、財務会計システム改修、ドライブレコーダー外購入により皆増

※ 普通建設事業は、ビオトープ改修、第1号調整池浚渫工事外により皆増

(2) 構成市町負担金の内訳

構成市町の負担金の内訳は、次のとおりである。

(単位：千円)

区 分	処理（運営）費分	地域振興費分	負担額合計
豊 岡 市	223,965	△2,118	221,847
香 美 町	57,308	1,133	58,441
新 温 泉 町	46,103	985	47,088
合 計	327,376	0	327,376

(注) 1 処理（運営）費分の負担割は、均等割（10%）、ごみ量割（90%）である。

2 地域振興費分の負担割は、均等割（15%）、人口割（85%）である。

(3) おもな自主財源の収入状況

ア ごみ処理手数料の収入実績

(ア) 手数料収入 152,852千円

(イ) 市町別内訳 豊岡市:124,924千円 香美町:14,345千円 新温泉町:13,583千円

イ 資源化物の売払実績

(ア) 売 払 収 入 28,679千円

(イ) 売 払 品 目 破碎鉄、破碎アルミ、スチールカン圧縮成型品、紙製容器包装など

ウ 再生可能エネルギー電気の売電実績

(ア) 電 力 量 13,145,555kWh

(イ) 売電収入額 200,405千円 バイオマス比率49.395%～69.654%

(ウ) 売 電 先 (株)タクマエナジー

(4) ごみ処理手数料の内訳

ごみ処理手数料の構成市町の内訳は、次のとおりである。

ア ごみ受入量

(単位：台、t)

区 分	燃 や す ご み	燃 や さ ないごみ	粗 大 ご み	ビン・ カ ン	ペット ボトル	そ の 他	計
豊 岡 市	36,551	5,034	5,098	1,057	429	2,143	50,312
	23,885.83	1,064.82	802.88	537.07	91.11	2,812.63	29,194.34
香 美 町	8,653	937	1,097	373	145	1,372	12,577
	4,025.58	169.35	185.35	155.82	30.43	1,434.31	6,000.84
新温泉町	3,298	306	552	0	1	354	4,511
	3,728.49	150.38	141.38	0.00	0.11	852.03	4,872.39
合 計	48,502	6,277	6,747	1,430	575	3,869	67,400
	31,639.90	1,384.55	1,129.61	692.89	121.65	5,098.97	40,067.57

(注) 1 市町別の上段は台数、下段は重量である。

2 新温泉町のビン・カン及びペットボトルは、一般の方が施設に直接持ち込みされたものである。

3 重量は、搬入時の計量データによるものである。

イ ごみ処理手数料

市 町	区 分	台 数	重 量 (t)	料 金 (円)	料 金 割 合 (%)
豊 岡 市	許可	7,841	8,776.62	87,766,200	57.42
	一般	23,605	2,173.64	21,736,400	14.22
	一般事業系	6,373	1,517.83	15,178,300	9.93
	県・官公庁	91	24.32	243,200	0.16
	計	37,910	12,492.41	124,924,100	81.73
香 美 町	許可	354	306.92	3,069,200	2.01
	一般	5,752	570.97	5,709,700	3.73
	一般事業系	1,968	548.64	5,486,400	3.59
	県・官公庁	35	7.94	79,400	0.05
	計	8,109	1,434.47	14,344,700	9.38
新温泉町	許可	471	794.86	7,948,600	5.20
	一般	1,651	227.61	2,276,100	1.49
	一般事業系	599	328.55	3,285,500	2.15
	県・官公庁	21	7.30	73,000	0.05
	計	2,742	1,358.32	13,583,200	8.89
総 計		48,761	15,285.20	152,852,000	100.00

(注) 1 許可とは、一般廃棄物収集運搬許可業者のことである。

2 一般とは、一般家庭や登録事業者(手数料後納業者)ではない事業者のことである。

3 一般事業系とは、登録事業者(手数料後納業者)のことである。

※ 関係市町(直営、汚泥、災害ごみ等)及び収集運搬委託業者については、ごみ処理手数料は徴収しない。

4 財産の状況

財産に関する調書及び財産台帳により審査した。その概要は、次のとおりである。

(1) 土地及び建物 (令和2年3月31日現在・単位：㎡)

区 分			土地（地積） 現 在 高	建物（延べ面積） 現 在 高	参 考
行政 財産	その他 の行政 機 関	廃棄物処理施設	22,350.00	15,807.25	クリーン パーク北但
	公共用 財 産	山 林	261,732.21	56.70	森林里山 ゾーン、 進 入 路
		その他の施設	881.81	40.57	管理施設
合 計			284,964.02	15,904.52	

(2) 物品〔車両及び100万円以上の物品〕 (単位：台・個)

区 分	前年度末 現 在 高	決算年度中 増 減 高	決算年度末 現 在 高
その他特殊車両 (油圧式バックホウ)	1	0	1
合 計	1	0	1

5 基金の運用状況

(1) 審査の結果

審査の対象とした一般廃棄物処理施設基金は、北但行政事務組合が設置する一般廃棄物処理施設の撤去に必要な財源を確保するため設置された基金である。その計数は正確であり、設置目的に則して適正に運用されていると認められた。

(2) 基金の運用状況

基金の決算年度末現在高は60,507千円で、前年度より19,004千円増額している。また、当年度の基金の運用益金は3,725円で、(款)財産収入(項)財産運用収入(目)利子及び配当金に収入されている。

＜基金の運用状況（令和2年3月31日現在）＞ (単位：千円)

区 分	前年度末 現 在 高	決算年度中 増 減 高	決算年度末 現 在 高	備 考
一般廃棄物 処理施設基金	41,503	19,004	60,507	現 金
合 計	41,503	19,004	60,507	

※ 基金については、定期預金及び普通預金で運用している。

6 審査の所見

事務処理等に係る要望事項等については、次のとおりである。

〔要望事項〕

(1) 一般廃棄物処理施設基金について

一般廃棄物処理施設基金については、将来の施設取壊しへの財源の一部として、売電収入の概ね1割程度を毎年度積み立てることとしている。取壊しのための財源手立てが限られている中で、有効な手段の一つであり、関係市町の健全な財政運営に資するため、可能な限り基金積立を行われたい。

また、将来にわたる財政の健全な運営に資するため、決算における剰余金について、地方財政法第7条第1項の規定が適用されるかどうかとの考えもあるが、適切に対応されたい。

(2) 構成市町負担金について

事業の運営に必要な経費を積算し、処理（運営）負担金は、均等割及びごみ量割で、地域振興負担金は、均等割及び人口割で負担金額が決定されているが、事業の運営においては、コストを意識した運営に努め、将来を見据えた経営となるようなお一層の努力を期待する。

(3) 自主財源確保のための取組について

再生可能エネルギー電気の売電実績の増収など構成市町の負担軽減に資する歳入確保の取組を着実に推進しているが、今後も収入事務を適正に執行し、より一層の自主財源確保に努められたい。

(4) 今後の施設運営業務について

当年度SPC発注の焼却炉定期点検中に作業員の転落事故が発生した。引き続き事故が発生しないよう業者への指導に努め、さらなる安全管理に向けて取り組まれたい。

(5) 北但地域の循環型社会形成に向けて

ごみ処理は住民生活を守る不可欠で大切な仕事であり、今後とも「ほくたんハイ trusts株式会社」との連携・協力のもと、北但地域の循環型社会形成に向けて安全安心な施設運営に取り組まれたい。

また、当該施設が環境学習や地域交流の拠点施設としてさらに成長するよう望むものである。